

令和6年度 近畿大学泉州高等学校 学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに、近畿大学の教育の目的である、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。

- * 育てたい生徒像：他人を思いやれる心を有し、社会に有為な人材と認められる生徒
- * 目標とする学校像：自主・自立の精神のもと教員、生徒がともに人間的に成長する場

このような観点から、あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。

2 中期的目標および実施項目

A 確かな学力の育成

近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成、自校理解教育、確かな学力）を踏まえ、以下の項目について改善する。

ア 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し、学年ごとの一斉受験機会を設定する。

上記項目に関しては、自己評価にて結果を分析し、次年度への目標設定とする。

イ 基礎学力アップの補習、国公立大学入試対策補習の導入により、生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。

ウ 理系クラスを少人数クラス展開とし、学力の向上をはかる。物理、生物、数学において能力別少人数クラスの設定を行う。

エ 図書館活動を活性化し、読書量の増加を目指す。

オ 放課後サテライト授業の受講希望者増加にともない、サテライト教室・自習室の整備・拡張を行い、学年ごとに受講・自習できる環境整備を行う。

カ 大学広報担当者による講演会、外部講師（英語、国語）による大学入試対策講座を実施する。

キ 大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。

B 希望進路の実現

ア 近畿大学および国公立大学志願者（合格者・進学者）を増加させる。

イ 生徒の希望進路に対応した選択授業科目を設定し、細やかな指導を行って合格へつなげる。

ウ 私立大学文系学部志望者へも数学、理科の教科指導を行い、基礎学力を高める。

エ 大学オープンキャンパスへの参加、授業（英会話や実験）体験の機会等を増やし、志望動機を高める。

C リーダーシップ、人間力を高める取り組み

ア 生徒会活動、クラブ活動を生徒主体に運営させていく。

イ 体育祭、文化祭、入学式、卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。

ウ いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより、クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に1度、年間3回のアンケート調査を実施する。

エ AED講習を高校2年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校1年生、3年生対象に実施し、生命、生活に対して確かな知識と意識を涵養する。

D グローバル化への対応

ア コロナ禍で中断していた希望者対象の1年間留学、3ヶ月留学、2週間語学研修（アメリカ・オレゴン州）を令和5年度より再開する。今後、さらに参加者が増加するように研修時期、研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。

イ コロナ禍で中断していたハワイ修学旅行を令和5年度より再開し、語学体験、異文化理解・交流、社会に出る前の国際経験を身につける。

ウ アの参加者および希望者に対して、近畿大学英語村特別プログラム受講を令和5年より再開する。

エ アメリカ・オレゴン州のルーズベルト校との交流（交換留学）を令和5年度より再開する。

オ オーストラリアのパースへの10日間の語学研修（一家族1名のホームステイ）を実施する予定である。

E 地域・保護者との連携、社会貢献

ア 文化祭を近隣住民へ開放し、バザーでの収益を被災地義捐金としている。

イ 税理士を招いての「税の講習会」の実施、2年生全員の「税の作文」の応募など、税務署の活動への協力を行っている。

ウ 保護者会向け講演会を実施している。

エ 保護者、生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入しているため、緊急時（災害など）の連絡を確実に取ることができる。また、一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため、保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。

F 健全な経営状況の維持

ア 生徒募集における定員確保

イ 体育館等の改修工事実施

ウ スクールバス収支の改善

【自己評価アンケートの結果分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和7年2月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者アンケート</p> <p>※ 前年度と、同じ項目にてアンケートを実施しました。</p> <p>【34項目中「(よく)あてはまる」の割合が80%以上の項目・数値の高い順】</p> <p>① 生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。 92.7%</p> <p>② 学校の特色は、進路目標の実現である。 90.1%</p> <p>③ 校内や学校行事等での感染対策は適切である。 90.1%</p> <p>④ 学校の施設・設備は、丁寧に使われている。 89.3%</p> <p>⑤ 学習評価(定期考査, 提出物等)は、適切である。 88.9%</p> <p>⑥ 学校は、基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。 87.8%</p> <p>⑦ 学校では、生徒の個人情報がよく守られている。 87.8%</p> <p>⑧ 先生は、問題が起こればすぐに対応してくれる。 87.4%</p> <p>⑨ 学校は、生徒の進路に関する情報を適切に提供している。 86.3%</p> <p>⑩ 学校の行う進路(進学)説明会の内容・回数は適切である。 85.5%</p> <p>⑪ 子どもは、学校行事に積極的に参加している。 85.5%</p> <p>⑫ 学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。 83.6%</p> <p>⑬ 保護者として、この学校に通わせて満足している。 82.4%</p> <p>⑭ 授業に先生の熱意が感じられる。 82.4%</p> <p>⑮ 学校で、子どもの進路について先生が丁寧に指導してくれる。 80.9%</p> <p>⑯ 学校は、校内での事故防止に施設設備面で配慮している。 80.9%</p> <p>☆ 前年度15項目から1項目の増加</p> <p>【34項目中「(よく)あてはまる」の割合が70%未満の項目・数値の低い順】</p> <p>① この学校に入学して以来、家庭学習の時間は増えた。 69.8%</p> <p>② 子どもは、学校の雰囲気がよく、毎日が楽しいと言っている。 69.1%</p> <p>③ オンライン教育に関する対応は適切である。 68.3%</p> <p>④ 地震・火災に備え、生徒に避難マニュアルが周知されている。 66.8%</p> <p>⑤ 子どもは、学校から保護者宛に出された文書を必ず渡している。 66.0%</p> <p>⑥ 生徒会活動・クラブ活動は活発である。 65.3%</p> <p>⑦ 学校は、保護者や地域の人たちと話す機会を多く持っている。 55.7%</p> <p>⑧ 子どもは、学校が提供するオンライン教育を活用し、力をつけている。 45.8%</p> <p>☆ 前年度9項目から1項目の減少</p> <p>[分析]</p> <p>高評価の項目では、本校は生徒の人権を尊重する意識を育てるための取組において、保護者からの高い信頼を得ています。日々の指導や学習活動において、生徒同士の多様性を受け入れ、共に学ぶ姿勢が醸成されていることがうかがえます。また、低評価の項目では、オンライン教育の成果が特に「よくあてはまる」が他項目に比べて少なく、低評価も目立っています。オンライン教育の提供には対応しているものの、生徒が十分に活用できているか、学習成果として表れているかという点では課題が残ります。</p> <p>○教職員アンケート</p> <p>【40項目中「(よく)あてはまる」の割合が80%以上の項目・数値の高い順】</p> <p>① 生徒は、学校行事に積極的に参加している。 86.1%</p> <p>② 校内や学校行事等での感染対策は適切である。 86.1%</p> <p>③ 生徒にわかりやすい授業を実践することができている。 83.3%</p> <p>④ 生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。 83.3%</p> <p>⑤ 生徒指導において、家庭との連携ができています。 83.3%</p> <p>⑥ 高大連携協定を結んだ大学と連携体制が整い、指導が行われている。 80.6%</p> <p>⑦ 学校は、生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。 80.6%</p> <p>⑧ いじめの実践把握に努め、いじめの早期発見に努めている。 80.6%</p> <p>⑨ 学校では、生徒の個人情報および教職員のプライバシーがよく守られている。 80.6%</p> <p>☆ 前年度90%以上から80%に下げました。(90%以上の項目なし)</p> <p>[分析]</p> <p>昨年度、保護者・教職員ともに高評価であった生徒の校則遵守の項目について、保護者との認識に隔たりが生じている。また、各種会議の有効性や授業参観・研究授業、地域交流に対する評価については、改善がみられた。</p> <p>[全体感]</p> <p>全体的に昨年度低評価だった項目については、若干の改善がみられたが、理解を得られるようさらなる努力が必要である認識を教職員間で共有したい。</p>	<p>1. 生徒の人権尊重への意識育成については、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計比率が高く、全体的に肯定的な評価が得られている。本校は、生徒の人権意識の育成について、生徒の人格形成に力を注いでおり、教育方針が明確で実践的である。本校の教育方針の浸透が評価されていることを示していると考えます。</p> <p>2. 感染対策の適切さについては、学校行事や日常生活における感染対策の徹底により、保護者の安心感が確保されている。教職員の迅速かつ適切な対応が、予測不可能な状況下でも生徒の安全を守る体制として評価されている。</p> <p>3. 教員の熱意については、保護者から教員の情熱や授業に対する真摯な態度への評価が高い。教師が授業に注ぐ熱意が、生徒の学ぶ意欲にしっかりとつながっており、保護者からその姿勢が高く評価されている。日々の授業改善が「伝わる教育」となっており、信頼関係の構築に寄与している。</p> <p>4. 進路指導の丁寧さについては、進路情報の提供や説明会の実施回数・質への評価が高く、「丁寧に対応してくれている」という印象が際立ちます。大学進学を見据える保護者にとって安心材料であり、他校と比べて差別化の要因にもなると思われる。</p> <p>1. オンライン教育の成果については、オンライン教育の提供には対応しているものの、生徒が十分に活用できているか、学習成果として表れているかという点で課題が残ると思われる。ICT活用における生徒個別の指導やサポート体制の強化が期待される。</p> <p>2. 保護者との対話機会については、本校は家庭との連携に一定の努力を重ねてきたものの、「地域との対話」や「保護者との継続的なコミュニケーション」に関しては、さらなる工夫と頻度の見直しが求められる。双方向の関係づくりを意識した取り組みが改善につながると考えられる。他校では、公開授業や地域連携イベントで信頼獲得を図っている例も多くあり、形式的な関係性から、より双方向的なつながりへと発展させる工夫が求められる。</p> <p>3. 生徒の校則の遵守について、校則の意義や目的の共有が不十分な可能性があり、生徒への説明と利用促進に向けた活動が必要と考えます。また日々の活動を通じて「自律」の力を育むことが、信頼の獲得につながると思われます。生徒の意識だけでなく、保護者との共通理解形成が必要かもしれません。</p> <p>1. 生徒指導と家庭の連携について、家庭との連携体制が確立されており、保護者との信頼関係が構築されている。</p> <p>2. 高大連携・大学との連携や計画的な指導体制に対する評価が高く、進学対応が充実されているのは評価できる。</p> <p>3. 人権意識の育成については、生徒の人格形成に力を注いでおり、教育方針が明確で実践的である。</p> <p>5. 感染対策については、安全管理に対する信頼が厚く、対応が一貫しており、評価できる</p> <p>6. オンライン教育の活用については、教職員・生徒双方における活用の実感に乏しく、ICT環境の活用で課題あることから、ICT活用とオンライン教育の実効性向上を図るために、授業支援のデジタル化を推進する必要がある。</p> <p>組織内コミュニケーション活性化のためにテーマ別(ICT等)ワーキンググループを設置し、教員・事務職員の情報交換を行う必要がある</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
A 確かな学力の育成	<p>(1) 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。</p>	<p>(1) 各種検定の実施計画・内容 3検定の実施時期 (学年統一実施) *統一実施回以外は希望者受験</p> <p>①英語検定 高校1年次9月 高校1年次2月 高校2年次1月</p> <p>②漢字検定 高校1年次6月 高校2年次10月</p> <p>③数学検定 高校1年次2月 高校2年次2月</p> <p>(2) 基礎学力定着度の指標として総合評価を行う。 (英語検定、漢字検定、数学検定の取得級を得点化し合計する。)</p>	<p>(1) 令和5年度入学生の高校2年終了時点での取得級と割合 (令和6年度末集計、在籍者数142名) ()内は令和5年度→令和6年度の合格割合の変化を示す。</p> <p>①英語検定 目標 2級取得 35% 準1級 0名(0%→0%) 2級 20名(12.3%→14.0%) 準2級 66名(46.1%→46.4%) 3級 51名(32.3%→35.9%)</p> <p>②漢字検定 目標 準2級以上 50% 2級 3名(5.3%→2.1%) 準2級 42名(47.3%→29.6%) 3級 89名(85.5%→62.7%)</p> <p>③数学検定 目標 準2級以上 50% 準1級 0名(0%→0%) 2級 4名(0%→3.0%) 準2級 48名(23.2%→33.8%)</p> <p>(2) 令和7年度より2年終了時点での漢字検定、英語検定、数学検定の級毎の合格率および、3検定の総合評価を分析し、対策を実施している。総合評価については、各検定合格級を以下のように得点化している。 英語検定 2級;5点 準2級;3点 3級;1点 漢字検定 2級;5点 準2級;3点 3級;1点 数学検定 準1級;5点 2級;3点 準2級;1点</p> <p>総合評価(得点合計) 目標;総合得点3点以上の割合60% 結果;102名(71.8%) 11点以上 2名(0%→1.4%) 9点~10点 13名(1.4%→9.2%) 5点~8点 35名(12.7→24.6%) 2点~4点 78名(53.5%→54.9%) 0点~1点 14名(32.4%→9.9%)</p>	<p>(1) ①英語検定について (今後も努力継続が必要) 高校2年終了時までの英語検定2級合格率は14%程度で、前年度を上回ったが、目標である35%からは大きな開きがある。また準2級以上で見ると約60%と前年度を上回ってはいるが、2級取得率の増加を目指すためにまずは準2級の合格者を出すための努力が必要である。また、1次試験での不合格者にリスニングでの低得点者が多いことから、授業その他の機会においてリスニング指導の機会を増やす必要がある。</p> <p>②漢字検定について (今後も努力継続が必要) 準2級を取得している生徒が学年の3割程度にとどまっておらず、継続した指導が必要である。検定の1週間前から対策学習を始める、といったやり方ではなく、年間を通じた日々の地道な学習を行わせなければならない。単に過去問を解くだけでなく、生徒個人が苦手を把握し、四字熟語なら四字熟語、類義語・対義語なら類義語・対義語といった分野別の対策に取り組ませることが肝要である。</p> <p>③数学検定について (今後も努力継続が必要) 準2級以上の合格者数は増加しているが、目標達成には至っていない。今後も継続指導が必要である。合格者のほとんどが理系選択生徒であるので、文系選択生徒でも合格できるものを増やしたい。授業展開の中で検定の出題傾向に触れ、問題を解説するなど、検定の問題を扱う機会を多く持ち、対策を継続していきたい。また、準1級については試験範囲が数学Ⅲ中心であるため高校2年終了時で受験させることは難しいが、早い段階で2級に合格した者は準1級にトライさせたい。2級、準2級については、さらなる合格率向上を目指すべきである。</p> <p>(2) 総合評価の結果は、年々上昇しており、総合得点3点以上の生徒割合60%という目標を達成することができた。今後も各検定の自己評価を踏まえてそれぞれの合格率を上げるとともに、生徒各個人の総合得点を常に把握させ、対策へのモチベーションにするとともに、統一受験日以外の受験を勧める際の材料としていく必要がある。</p>
B 進路希望の実現	<p>1. 国公立大学現役進学者20%</p> <p>2. 近畿大学現役進学者50%</p> <p>3. その他の難関私大現役進学者30%</p>	<p>近畿大学の準附属校として、高い学力・意識・行動力を持つ生徒を近畿大学に現役進学させるための近畿大学との連携行事参加、入試対策を含めた進路指導を行っている。同時に難関国公立大や地方国公立大を含む国公立大への進学者も増やすべく、共通テスト対策や二次対策の授業・模試・合宿などの機会を設け、公募推薦や総合型を含む受験情報の提供や対策などの進路指導を行っている。その中で学力の底上げを図り、すべての生徒が希望進路を実現するだけの力を身に付けられることを目指している。</p>	<p>令和6年度卒業生(令和7年度入試) 現役進学先割合(卒業生数129名) ()内は令和5年度卒業生→令和6年度卒業生の進学割合の変化を示す。 <目標> 1. 国公立大学進学者20%(6名[5%]→8名[6%]) ・大阪公立大1、和歌山大5など 2. 近畿大学進学者50%(54名[41%]→52名[40%]) ・理工学部7、農学部6、情報学部1など 3. その他の難関私大進学者30%(19名[14%]→12名[9%]) ・ベネッセのBライン(合格可能性60%)偏差値が55以上の大学・学部を「難関大」と定義。関西大1、大阪医薬大2など</p>	<p>大阪公立大に5年連続、和歌山大に9年連続で合格者を出すなど、国公立大学に一定の合格者が出たが、目標にはまだ遠く及んでいないので、今後さらに伸ばすべく指導に力を入れていくべきである。近畿大学に関しては、進学しなかった者を含む「実合格率」において一昨年の30%台から、昨年49%、今春47%と上昇し、「卒業生の2人に1人は近大に合格」と言えるようになった。検定や学力面で70%程度の生徒が特別推薦の基準を満たすようになれば近大進学者50%の達成は可能であろう。その他の難関私大進学率は、近大進学率とのからみもあるが、生徒の学力底上げによって少しでも目標に近づきたい。</p>

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
C リーダーシップ、人間力を高める取り組み	(1) 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化	(1) ①入学式、卒業式、体育祭、文化祭、外国人留学生の歓送迎行事、オープンスクールなど各種行事における準備・運営 ②文化祭において生徒会チャリティーバザーを実施 ③②以外の義援金募金活動	(1) 目標；活動人数、活動数の増加 〔結果〕本年度の生徒スタッフは65名であった。 ①外国人語学研修生の歓迎会やお別れ会、体育祭、文化祭では準備や運営などを進んでいき、学校行事の活性化に寄与した。オープンスクールなどの中学生向けの行事では、中学生、保護者の校内案内や交流、体験授業補助など大いに活躍した。中学生、保護者に非常に良い評判をいただいた。 ②売り上げを日本赤十字社に寄付した。 ③令和6年12月に歳末募金と令和6年10月に能登半島地震義援金募金を行った。	(1) 生徒スタッフの活動については、令和元年度より開始して6年目となる。昨年度に比べて在籍数が減り、スタッフの人数が減ったものの、生徒スタッフになった生徒の割合が今年度(令和6年度)は15.3%になり、目標であった15%を超えることが出来た。(令和4年度11.8%、令和5年度12.1%)特に、オープンスクールでの生徒スタッフの活動が良い評価を得ており、自主的に学校行事に携わっていきこうという意識をもつ生徒の入学が増加していると考えられる。今後はさらに活動の幅を広げることを目標に活動していきたい。
D グローバル化への対応と取組	グローバル化への対応と取組を積極的に行う	(1) ア 2024年8月23日～2025年6月9日 長期留学 イ 10月29日～11月2日 ハワイ修学旅行 ウ 7月9日～17日 アメリカ・ルーズベルト高校生の受け入れ	(1) 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 〔結果〕 左記 アの1年間の長期留学1名 イの修学旅行145名 ウのルーズベルト高校生9名受け入れ	(1) ア そもそも円安や米国の物価上昇などの影響による費用面での問題から申し込み生徒が少ないと思われる。イに関しては、対費用効果の高い魅力的な内容の研修が提供できるよう検討すべきである。「語学力の向上」と「異文化交流や体験」のどちらを第一の目標として据えるのかと、その研修内容について、担当旅行者や現地のプログラムコーディネーターと協議していく必要があるかもしれない。 イ 研修内容は昨年度と同様で、特に2日目のパールハーバー戦艦ミズーリ記念館への訪問は生徒にとって「平和」について考える良いきっかけになったと思う。国際交流の観点からは、ハワイの歴史に触れたり現地の方との英語を用いた交流を含む行程があっても良いのではないかと。また、各教科とも連携を取りながら、体系的な事前・事後指導を検討すべきである。 ウ 校内での授業体験は研修生を参加させる授業の選定が難しい。教科による偏りが無いよう、また研修生が出来るだけ多くの生徒・教師との関わりを持てるよう調整が必要である。校内での篆刻体験や着付け体験、岸和田城、京都嵐山、高野山など校外での研修は、研修生・ホストファミリー生徒、双方にとって満足いくものであったようである。今後は、ホストファミリー生徒以外の生徒とも校内で交流を持てるプログラムを検討したい。
E 地域・保護者との連携、社会貢献	地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う	(2) ①文化祭の近隣住民の方への開放 ②税務署との活動に参加「税の作文」提出	(2) 〔結果〕 ①については、少ないが本年も来場者があった。 ②については、岸和田税務署より税理士の方を招いて講演をしていただき、2学年全員が「税の作文」に応募し、1名が大阪府租税教育推進連絡協議会賞を受賞した。	(2) 地域、地元税務署および警察署との協力関係は良好である。しかし、だんじり祭りをはじめとした学校周辺地域との交流は、コロナ禍を境に大きく減ってしまったきり、なかなか元のように再開できていない。だが、地域住民に開放している文化祭での生徒会チャリティーバザーで購入される方もあり、今後、地域との関わりを少しずつ増やしていきたい。周辺地域は少子高齢化が顕著である。本校として周辺地域に貢献できることを考えていきたい。
F 健全な経営状況の維持	健全な経営状況の維持を行う	(1) ア 生徒募集における定員確保 イ 体育館等改修工事実施 ウ スクールバス収支の改善	(1) ア 目標；経営の健全化 令和5年度在籍者数；428名 令和6年度在籍者数；435名 7名増加 イ 体育館等改修工事実施 校門にモニター付きインターフォン 電磁ロック設置 ウ スクールバス新車4台購入 運転委託会社の見直し ガソリン給油の見直し	(1) ア 前年度よりも中学校教員対象説明会など多くの入試広報イベントが実施でき、参加者は前年度より増加したが、入学予定者は令和6年度の157名に対し、令和7年度は5名増の162名となった。生徒募集活動等の改善点を検討した上で、今後一層の努力が求められる。 イ 体育館フロア改修工事を実施した。 警備員を廃止し、校門にモニター付きインターフォン、電磁ロックを設置 ウ スクールバス収支改善のため、令和6年3月新車4台購入、運転委託会社変更、ルート・便数見直し、ガソリン給油会社変更を行い、年間約3000万円収支改善を図った。